

モニタリング 2023（令和5）年次報告の概要

II 資産の保護・管理

○II-1 現状変更等件数及び内容

- ・史跡の現状変更許可申請書の提出件数 20件
史跡内における現状変更は、文化財保護法の手続きに基づいて適正に実施されており、構成資産の顕著な普遍的価値や属性に影響を与える変更は行われていない。
- ・通知書・届出書の提出件数 0件

○II-2 き損件数及び内容

- ・資産のき損件数 0件

○II-3 遺構の状況

- ・墳丘の土砂流出による遺構変化 2件
- ・墳丘裾の洗掘による遺構変化 0件
- ・樹木の立ち枯れによる遺構変化 0件
- ・その他の要因による遺構変化 0件
土砂流出が認められる資産については、整備基本計画策定後、順次保護措置の着手時期を検討する。変化の認められないその他の資産も含め、今後も経過を観察していく。
- ・定点観測写真撮影による変化の把握
遺構への影響が懸念される資産はあるものの、いずれの資産においても価値を損ねるような変化は認められない。

○II-4 調査研究にかかる報告書の発刊数

- ・構成資産にかかる調査の報告や研究成果を記載した報告書、論文等の発刊数 24件
資産及び資産周辺埋蔵文化財包蔵地の発掘調査成果報告書、シンポジウム・講座資料、研究論文等が多数刊行された。

III 開発の圧力

○III-1 資産周辺の開発の申請

- ・緩衝地帯範囲での各種法令に基づく申請許可件数・内容
(建築基準法による確認、景観地区における認定、屋外広告物法による許可)
建築確認申請件数は微増した市もあるが、他の申請件数は減少しており、資産の価値を損なうような開発圧力の増加は認められない。

○III-2 景観を阻害する要因の観察

高さに関する既存不適格物件の件数に変化はなく、景観に変化は生じていない。

○III-3 景観の定点観測

墳丘越しの景観に変化は生じていない。古墳の間に新たに建築された建築物はなく、景観に変化は生じていない。

IV 環境の圧力

○IV-1 気候変動

百舌鳥エリアでは、降水量合計は昨年度より増加し、1日の最大降水量、1時間の最大降水量とも過去10年間で二番目に多かったが、資産への影響は認められない。古市エリアでは、降水量合計は昨年度より増加し、1日の最大降水量は過去10年間で二番目に多かったが、資産への影響は認められない。

○IV-2 樹木の異常繁茂

資産の価値が損なわれるような植物の異常繁茂、樹種の変化等は認められない。

○IV-3 鳥獣の営巣活動等の状況

鳥獣の出没状況や営巣活動等による資産の遺構に対する負の影響は認められない。

V 自然災害と危機管理

○V-1 風水害・地震・火災時の遺構の状況

風水害・地震・火災等による資産のき損はない。

VI 来訪者への対応

○VI-1 講演会・見学会等の開催数

・講演会、シンポジウム、調査見学会等の開催数の把握 25件

新型コロナウイルス感染症にかかる人数制限等が解除されたことで、開催数が増加傾向を示し、大規模な講演会やシンポジウムも開催されるようになった。

○VI-2 ホームページの閲覧数

羽曳野市ホームページは、出土品保存にかかるクラウドファンディング記載ページの増設や、ホームページのリニューアルにより、閲覧数が大幅に増加した。また、新聞記事の掲載件数は増加したが、雑誌・書籍等への写真使用申請件数はやや減少した。インターネット検索ボリューム数に関しては、「大阪 世界遺産」というキーワードでの検索数が増加した。

○VI-3 解説資料等の発行部数

恒常的に使用するガイドブックやパンフレット等の改訂・発行を行った。全体としては昨年度と同程度の発行部数となった。

○VI-4 ガイド養成のための研修回数

ガイド団体によるガイド及び養成研修等は、昨年度と同程度実施された。ガイドへの参加人数はやや増加した。

○VI-5 ガイダンス施設の整備状況

ガイダンス施設について、新たな整備は行われなかった。

○VI-6 案内板等設置計画の策定と実施

案内板等はほぼ設置が完了していたところ、羽曳野市においてさらに拡充が図られた。

○VI-7 便益施設の配置状況

資産や施設への来訪者は概ね増加したが、すでに主要導線上にトイレを設置しているとともに、駐車場は十分な台数を確保しており、年間通じて問題は生じていない。

○VI-8 来訪者数

参考数値とした応神天皇陵古墳を除くと、資産への来訪者数はおおむね増加した。施設への来訪者数は、百舌鳥エリアでは増加傾向、古市エリアでは同程度であった。

※詳細は別冊の報告書を参照